

とままえ



風かおる
人が輝き
躍動するまち



まちひとと百景

古丹別サンダース快進撃!

6月26日(土)、27日(日)に本町で開催されたスタルヒン杯野球大会決勝で古丹別サンダースが萌友野球少年団を17-1で退け優勝。

翌週7月3日(土)、4日(日)に羽幌町で開催されたホクレン杯野球大会でも羽幌野球スポーツ少年団に4-3で逆転勝ちし、管内優勝を収めた。

この調子で全道大会もがんばれ!サンダース!

- さようならウェイン先生…2
- 古丹別サンダース快進撃で全道大会出場…3
- 苫前・古丹別神社祭…4
- ホワイトビーチ安全祈願祭…5
- 苫商祭…6
- 地域社会貢献事業・文芸…7
- 健康ばんざい…8
- 国民健康保険ガイド…9
- 国民年金・ファイヤー通信…10
- 学びの広場…11
- 住まいる情報…12~13
- 風車まつりギャラリー…14

まちの人口

人口/3,655人(男/1,712人:女/1,943人)
世帯数/1,649世帯 (7月31日現在)

7月29日付けで任期を終えた本町の英語指導助手のベニソン・ウェインさんが帰国した。ウェインさんはニュージーランド出身で22歳の時に来町し、本町の英語指導助手として小中学校・高校で授業を行うとともに、学校や地域の行事、



更には様々な団体に所属し積極的に日本の文化に触れていた。

温厚な性格であったため、児童生徒、教員からの評判もよく、町でもよく声をかけられていたようである。また、団体では、本町のヨサコイチーム 苫前鱗萃会に所属、札幌市で開催されたYOSAKOIソーランまつりにも参加し、北大通りパレードコースで個人賞を受賞するなど活躍。ほか去年は町民劇の公演「1939インディギルカ号」にも漁民役で参加、慣れない日本語の台詞に悪戦苦闘しながらも役をこなした。

出身大学がホテルマネジメントスクールということもあり、帰国後はカナダのホテルへ就職する予定であるとのこと。

なお、ウェインさんからのメッセージは来月号に掲載予定です。

苫前小・古丹別小ブックフェスティバル

6月17日(木) 苫前小学校、同月22日(火) 古丹別小学校においてブックフェスティバルが開催され、町内の児童が本とのふれあいを楽しんだ。

この事業は、北海道立図書館の協力で行われたもので、児童が多くの本と出会い、その中から自分の読みたいものを見つけ出す経験を通して読書に親しむ契機とすることを目的に実施されたもの。

最初に図書室サポーターによる大型絵本「ふしぎなキャンディーやさん」の読み聞かせや新聞紙を使った「たかしくんがお父さんと釣りに行ったお話」などを実施、特に新聞紙を使ったお話では、先生も参加、新聞紙をおりがみのように舟や帽子、シャツなどに折り話を進めていくが、うまく折れずに



形がポロポロになってしまったり、新聞紙が破けてしまう先生もいて児童の笑いを誘っていた。

その後、体育館に並べられた様々なジャンルの本約1200冊から自分が借りたいと思う本を5冊まで借り、両校合わせて700冊を超える本が児童の手に渡った。

公民館図書室の安藤麻里図書司書は「今まで貸出などを利用していない児童も本を手にとっており、本を好きになるきっかけづくりとなったと思う」と述べた。

この日1日多くの児童が本の魅力を改めて体感したようであった。



労働・交通の安全について再確認

～建設協会安全大会～

6月25日(金) 町公民館で町建設協会の安全大会が開催され、町内の建設業などの事業所の従業員等約100名が安全について改めて確認を行った。

この大会は毎年1回実施され、建設業の労働災害及び交通事故の絶滅を目的として開催されているもの。冒頭の挨拶で会長からは「各事業所で安全対策は確認されていると思うが、今一度点検を行い、万全を期して無事故・無災害を実現しよう」と述べた。

羽幌警察署の赤坂清孝地域交通課長からも「交通事故の発生状況と対策について」講話や渡部工業株式会社の上藤哲雄さんより決意宣言が述べられ、参加した従業員等の安全意識の向上を図っていた。



技能無料サービスの日

6月26日(土) 福祉センター及び公民館前で町総合技能士会(松田弘会長)主催による技能無料サービスが実施された。これは、技能士の技術を広く住民に還元するものとして、家庭にある包丁などの刃物類を研磨するもので本町では昭和56年度から実施している。

この日は両地区で14名の技能士が参加、家庭から持ち込まれた包丁類などあわせて約200本を1本1本丁寧に砥石で研磨し仕上げたが、晴れ渡った天候で気温も上昇している中行われたため、技能士は額から汗を流しながらの作業となった。

サービス提供を受けた住民も切れ味の戻った刃物を見て、技能士の方々へ感謝の言葉をかけていた。



古丹別サンダース快進撃で全道大会出場

6月26日(土)、27日(日)に本町野球場ほかで開催された第31回スタルヒン杯スポーツ少年団留萌支部予選大会において古丹別サンダースが優勝し、全道大会の出場権を獲得した。

古丹別サンダースは、1回戦で羽幌野球スポーツ少年団と対戦し最終回まで2-3とリードされていたが、二死から逆転勝ちし、波に乗った。2回戦では天塩タイガースに8-1、準決勝では増毛ファイターズに7-1と勝利し決勝へ。決勝は留萌市萌友野球スポーツ少年団と対戦。この試合も打線が爆発し17-1で快勝し全道大会の出場権を獲得した。

なお、苫前ファイターズも同大会に出場、2回戦で遠別ライオンズ野球スポーツ少年団に11-13で逆転負けを喫した。

さらに、7月3日(土)、4日(日)羽幌町で開催されたホクレン旗争奪第28回北海道少年軟式野球選手権大会留萌支部予選大会でも古丹別サンダースが優勝し、全道大会の出場権を獲得した。

1回戦で、遠別ライオンズ野球スポーツ少年団と対戦、12-0の大差で勝利、準決勝では留萌市緑友野球スポーツ少年団に3-2で決勝に進出した。決勝では羽幌野球スポーツ少年団と対戦、最終回でも0-0で決着がつかず促進ルールにより進め、表の攻撃で3点先取されたが、裏の攻撃で逆転満塁サヨナラランニングホームランが飛び出し、大逆転勝利を収めた。

7月8日(木)には、2大会優勝の報告と全道大会出場のお知らせのため、古丹別サンダースのメンバーと関係者が



町長を表敬訪問した。森町長からは「日頃の練習の成果が発揮され、2大会の優勝は大変感動した。都市部のチームに負けたくないサンダース魂で立ち向かってほしい」とエールを送り、松浦隆史監督も「少人数ではあるが全員野球で様々なミラクルを起こしてきた。優勝目指してがんばりたい」と意気込みを語った。

なお、スタルヒン杯スポーツ少年団野球大会は旭川市で7月26日(月)から開催され、サンダースは初日26日11時50分からの第2試合に平取野球スポーツ少年団と対戦、また、ホクレン旗争奪第28回北海道少年軟式野球選手権大会は札幌市で8月1日(日)から開催され、初日10時30分からの小樽シーレックス奥沢と対戦する予定になっている。



第1回とままえ水泳競技会

7月4日(日)にB&G海洋センターにおいて苫前水泳少年団(川村佳代会長)主催の第1回目となるとままえ水泳競技会が開催され、町内はもとより町外もあわせ約30名が集まり開催された。

川村会長、伊藤通康教育長の挨拶の後、田井奈津妃さん、柴田きなりさん、川村菜以さんの3人が「日頃の練習の成果を発揮し、泳ぎ切りたい」と選手宣誓を行った。

競技は、自由形、バタフライ、背泳ぎなどのほかビート板も含め10種目にわたって競技が行われ、会場にきていた保護者なども声援を送っていた。

川村会長は「来年は、開催日などを検討しながら近隣町村などにも参加を呼びかけしていきたい」と話した。



とままえバザール



7月10日(土)に旧チューオー古丹別店舗で苫前商業高等学校(金濱茂校長)商業部による今年第1回目となるとままえバザールが開催された。

今回は「夏を乗り切る涼菓」として和菓子を中心に、愛知県のういろろ、京都府の水ようかんや八つ橋、和歌山県の高野山ごま豆腐、管内特産品として初山別学園のアイスクリーム、羽幌町内から仕入れたパンのほか、地元農家より提供のあったメロンやミニトマトなどが販売された。

来店した住民の方々も滅多に買うことができない菓子類を、次々と買物カゴに入れていた。

苫前・古丹別神社祭

熱い!暑い! 夏が祭りがきた



第22回参議院議員通常選挙苫前町開票結果

第22回参議院議員通常選挙が6月24日公示、7月11日投開票が行われ、民主党には政権交代後、初の国政選挙で、自民党にとっては野党として初の国政選挙となり、有権者の関心が高まる中、北海道選挙区では投票率61.89パーセントと前回(平成19年)の62.40パーセントを下回る結果となりました。

本町では、北海道選挙区有権者3,135人中、2,265人が投票し、投票率72.25パーセントと前回の72.99パーセントをわずかに下回りました。

なお、比例区投票結果の小数点以下の数値については按分票に伴う得票数値です。

○参議院議員北海道選挙区

徳 永 エ リ (民主)	630票	当
大 林 ま こと (幸福)	34票	
長 谷 川 岳 (自民)	791票	当
中 川 けんいち (みんな)	191票	
は た や ま 和 也 (共産)	72票	
藤 川 ま さ し (民主)	470票	

○参議院議員比例区

幸福実現党	1.000	社会民主党	41.000
みんなの党	150.000	たちあがれ日本	22.000
民主党	946.000	日本創新党	3.000
女性党	13.000	国民新党	84.500
自由民主党	582.500	公明党	218.000
新党改革	14.000	日本共産党	60.000

川の中の生き物を捕獲せよ

～学社融合事業「川の探検」～

7月14日(水)三溪貯水池において苫前小学校(八谷芳博校長)1・2年生の学社融合事業「川の探検」が実施され、児童が川の生き物の学習をした。

今にも雨が落ちそうな天候の中実施されたが、1・2年生の児童には関係なし。川の中の生き物に興味津々な様子で行われた。

三溪貯水池ではスジエビやウグイが生息しており、児童はザルですくい上げるたびに、友達を呼び捕れたスジエビを見せ比べしていた。

すくったスジエビは学校に持ち帰り、飼育用として水槽で飼うとあって、児童も目の色を変え水の中を凝視していた。



海水浴シーズン到来!

～ホワイトビーチで安全祈願祭～

7月15日(木)にとままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチで安全祈願祭が実施され、森町長ほか来賓などあわせて約40名が出席し、本年度の無事故を祈願した。

海水浴シーズンの時期となり、全国的に遊泳中やサーフィンなどのマリネジャーにおける死者数や行方不明者数は平成21年度に296人で前年度より6人減少しているが、このうち遊泳中の死者・行方不明者が123人と大半を占めている(海上保安庁「海難の現況と対策について」より)ことや、全国で水の事故による犠牲のニュースが増えている状況である。

森町長も挨拶で「本町ではここ十年来事故は発生していないが、安全で誰もが楽しめる施設として皆さんのご協力をお願いしたい」と述べた。

本年度の夕陽ヶ丘ホワイトビーチは8月20日(金)まで開設している。



北海道知事感謝状伝達



長年、自然環境の保全や野生鳥獣の保護に関し10年以上従事し、顕著な功績が認められる方に感謝状が贈呈される北海道社会貢献賞知事感謝状(自然保護関係功労者)で岩見在住の加藤英夫さんに留萌振興局の川手雅紀保健環境部長より知事感謝状が贈呈された。

加藤さんは平成8年4月より自然保護監視員及び鳥獣保護員に就任、平成22年3月31日に辞任するまでの14年にわたり、町内全域の自然保護監視員及び鳥獣保護員として、野生鳥獣の保護、狩猟の取締及び鳥獣保護思想の普及に取り組んできたことが功績として認められ今回の感謝状受賞となった。加藤さんは奥様とともに出席され、感謝状を受け取り、笑顔で記念撮影を行った。

潮風うどんを学校給食に提供

町内小中学校の給食に小麦「春よ恋」を使用した潮風うどんが提供され、7月16日(金)のメニューに冷やしうどんとして出され、子ども達が味わった。

提供したのは「苫前産春よ恋をおいしく頂ukai」で、メンバーの村上和也代表、猫島貴之さん、小澤博記さんは古丹別小学校(岩村直幸校長)の4年生と6年生のクラスに分かれ、児童と一緒に給食をとった。

「苫前産春よ恋をおいしく頂ukai」では、以前学校給食のパン食の日にあわせ、同小麦を使用したくるみパンを提供しており、今回が2回目となる。

児童は、冷やしうどんとともに出されたエビの天ぷらや苫前産メロンを一緒に味わい、「おいしい」と大好評であった。



交通安全街頭啓発

7月16日(金)に苫前中学校前駐車場で夏の交通安全街頭啓発が行われ、町交通安全協会(千葉國雄会長)、町交通安全指導委員ほか、町内会や婦人会など約30名が交通安全の黄色い旗の波をつくり、スピードダウンを促した。



本町の交通事故状況は、1月から7月までで事故発生が4件、負傷者が8名で死亡者こそないものの、昨年と同じ時期と比べ、発生数が3件、負傷者で7名の増となっている。ただし、3月から7月まで事故の発生がなく、交通安全協会でも行楽シーズンとなるこの時期に事故防止とスピードダウンを呼びかけるため毎年実施している。

日差しが強く照りつける中、ドライバー1人ひとりに啓発物品を配布し、スピードダウンへの協力を求めた。

地域を見守る住民の集い兼通学路等パトロールボランティア研修会

7月16日(金)に公民館で地域を見守る住民の集い兼通学路等パトロールボランティア研修会が開催、町内各小中学校、高等学校関係者、PTA会員、防犯協会員などあわせて約100名が参加し、子どもの健全育成と安全対策について確認した。

羽幌警察署生活安全課生活安全係の三浦文郷係長からの講話「子どもの安全対策について」では、夏休み期間の青少年の非行が増えることから、家庭の中での教育が重要と話した。また、和歌山大学生涯学習教育研究センター長の山口寿久さんの講演「学校支援による地域教育力の向上」では、公民館などの講座参加者が学んだ成果を活かすため、学校を様々な形で支援できる体制として学校支援ボランティア活動についての紹介がされた。



「笑」にあふれた学校祭 ～ 苦商祭～



7月17日(土)、18日(日)に苦前商業高等学校(金濱茂校長)において学校祭が開催され、住民らが多く訪れた。

今年度のテーマは「笑」。準備から当日の対応、学校祭終了まで笑顔で終わろうという思いで行われた学校祭では、野外ステージプログラムや模擬店・縁日、笑店という各学年教室での催しなど多彩で盛りだくさん内容で行われ、訪れた多くの人々が笑いに包まれた。

各学年の模擬店では、ピザ味のホットサンド、カレー味やコンソメ味のフライドポテトなど、それぞれが考えたメニューを提供、お昼時には裏でつくる生徒たちは大忙しで駆け回っていた。また、1日目のヨーヨー釣りや缶倒し、ストラックアウトなどの縁日や2日目の各教室での実験体験や仮装喫茶、おばけやしきなども子ども達の人気を集めていた。

後日、縁日・模擬店などの収益5万円を社会福祉のために使ってほしいと、同校生徒会長の3年、立崎麻衣さんより町社会福祉協議会の笹原進会長へ寄贈があった。



名人落語と現代尺八の夕べ

7月17日(土)に公民館においてとままえ舞台鑑賞友の会、公民館主催の名人落語と現代尺八の夕べが限定50席ほぼ満席で開催され、笑いに包まれた。

出演は、落語芸術協会所属で真打の桂米福師匠と尺八郡山流の千島舟静山大師範、大川礼峰山師範の3人。

まずは、桂米福師匠による「替わり目」。おでん屋に行くため、化粧している女房に向かって亭主が言うことと、亭主がだんだん酔っていく様子を滑稽に演じ会場の笑いを誘っていた。

色物は癒しの邦楽として尺八の演奏。千島舟静山大師範、大川礼峰山師範の尺八では定番の「朝の海」や童謡「里の秋」



「小さい秋みつけた」などのほか、「コンドルは飛んでいく」「アメージンググレース」や松山千春さんの「恋」なども演奏し尺八の意外な魅力を発見することができた。

ト리는、米福師匠による「佃祭」。前半の身投げから助けられた女と男のやりとりではしんみり、後半の家に帰ってきたやりとりのドタバタ感のギャップが大きく会場を沸かせていた。

照りつける太陽の下で大盛況!

苦前町130年記念
第7回北海道風車まつり&
第2回エビ籠オーナーin苦前

7月25日(日)にとままえ夕陽ヶ丘未来港公園において第7回北海道風車まつり・第2回エビ籠オーナーin苦前が開催され、町内外より約5000名の来場者で大いに賑わった。週間天気予報では週末は雨の予想だったことから開催が心配されたが、気温も上昇し日差しが照りつける中、無事開催された。

オープニングの竹内獅子丸さんによる津軽三味線、千葉國雄実行委員長、森町長の挨拶の後、エビ籠オーナーin苦前が行われた。有限会社苦前水産(太田隆史代表)所有の第28豊翔丸が1回の操業で水揚げした甘エビを容器に入れ放題というので、事前にインターネットでの申し込みや当日来場した希望者あわせて219名が容器山盛りの甘エビを持ち帰った。中には4kgを超える方もおり、参加した方は満足そうな表情が印象的だった。

午後からはステージショーとして地元苦前鱗萃会によるYOSAKOIソーランや竹内獅子丸さんの津軽三味線ライブ、そして北見恭子さんの歌謡ショーが行われた。苦前鱗萃会の本年度の新たな踊り「風の旅人」のダイナミックさ、竹内さんの伝統的な民謡とJポップとのコラボレーションによるパワフルな演奏、そして北見さんの歌声とギャップのある秋田なまりの話術に会場も大いに盛り上がった。

アミューズメントコーナーでは、建設協会協力による建設重機の操作体験、ミニ消防車に乗ることができる消防体験、白バイに乗車し記念撮影できる警察車両体験、大型遊具やネイルアートなどに子どもの列が絶えることがなかった。また、風の屋台村では、メロンやミニトマトなどの農産物、鮮魚や一夜干しなどの海産物、ホタテご飯やシーフードカレーなどの飲食物、陶芸品や手作り作品などのフリーマーケットも多くの人が買い求めていた。



健康ウォーキング教室へ参加してみませんか? ~マイペースな健康づくり運動~

健康体操やウォーキングに関すること、自宅のできる転倒予防トレーニングなど楽しく健康づくり運動に役立つポイントを解説します。一緒にマイペースな健康づくり運動を始めてみませんか?

*運動靴・タオルを持参のうえ動きやすい服装でお越し下さい

日時 9月4日(土) 13:30~15:30
 場所 羽幌町中央公民館小ホール
 対象 30~60歳代の方(20名程度)
 講師 北海道文教大学人間科学部 佗美 靖 教授(健康運動指導士)

参加費無料

申し込み先
 8/23(月)までに
 苫前町役場町民課 駒井へ
 (☎64-2215)

主催 社団法人北海道栄養士会留萌支部

地域社会貢献事業

まちの施設を整備していただきました

上平模範牧場内道路への砂利敷き

~山本建設工業株式会社~

5月9日(日)に山本建設工業株式会社(山本啓一社長)が上平模範牧場内道路の砂利敷きを行った。この道路は、牧場内作業用はもちろん風車ウォーキングなどでも使用されていますが、融雪後の流れた水が溝を作り、走りづらい状態になっていました。今回の申し出により道路も整地され、通行しやすくなりました。ありがとうございました。



海水浴場駐車場のライン引きと塗料提供

~さくら佐藤建設株式会社・北海道ライナー株式会社~

6月22日(土)に札幌市のさくら佐藤建設株式会社(佐藤保人社長)がホワイトビーチ駐車場のライン引き、北海道ライナー株式会社(高橋信雄社長)が塗料の提供を行った。長年の使用で消えかかっていた駐車場内の白線も今回の申し出により完成直後の状態に戻り、利用者も安心して駐車できます。ありがとうございました。

北海道風車まつりへの協力

~白鳥建設工業株式会社~

7月20日(火)、25日(日)に留萌市の白鳥建設工業株式会社(堀松宏朗社長)が風車まつり会場の草刈りと同まつりに必要な発電機や交通整理員などの提供を行った。お陰で当日は事故もなく、町内外より多くの方が来場され、本町最大のイベントも盛会の内に終了することができました。ありがとうございました。



「文芸」

(短歌)

あふれ出る淋しき埋むる夏の陽に汚染されつつうすき影踏む
 手の上の桃のうす皮が花びらのやうに剥がれる束の間の過去
 古丹別 大矢根亮子

吉田川水面のほとりに初夏を呼び浅瀬に二羽の鴨が水浴び
 らぎれ雲水面に浮きてゆるやかに流れし蒲の穂のまだ青き
 札幌市 住吉 美恵

なに想ふ小雨のリズム心地よく夢の袂間で心遊ばす
 微風でも肌に触れつつ涼やかに熱帯の夜の一夜と思ふ
 札幌市 横内 弘子

聞こえるくる気温上昇する部屋にせみの鳴き声息苦しかり
 外灯の周りに湧いてくる如く羽虫うずまく暑き夏の夜
 古丹別 桑 風

(俳句)

夏晴れて 声なき空の 青さかな
 青葉風 昔を語る 死木の株
 古丹別 林 千代美

潮風に 休あずけて 歩む吾
 夏日さけ 木陰につどう 老夫婦
 古丹別 林 千代美

(文責・大矢根)

(川柳)

老いの身は 波風立らず 暮らしたい
 晴天に 浮かれ過ぎて 足の愚痴
 還暦を 過ぎて心の 揃い旅
 不揃いの 野菜湯の目を 見る人気
 大相撲 野球賭博の 揃い踏み
 札幌市 小島 信子
 札幌市 原 淑子
 留萌市 斎数 範章
 留萌市 芳賀 敏美
 鎌田 信夫

(文責・鎌田)